

稲作だより第1号

令和 5年 7月 24日発行

J A福岡市東部 福岡市農業指導センター農産班

～生育概要～

今年は梅雨入りが5月29日で平年より早かったものの、6月には梅雨の中休みもあり、全般的に気温も高い傾向が続いたため生育は概ね良好でした。しかし、7月に入り、曇雨天傾向となったため、全般的にやや徒長気味の生育となっています。なお、病害虫の発生は現時点では少ないようですが、今後の発生には注意が必要です。

7月20日 現在	平均気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	平年	今年	平年差	平年	今年	平年比(%)	平年	今年	平年比(%)
5月下旬	20.1	21.3	1.2	71.9	55.3	76.9	34.6	74.5	215.3
6月上旬	21.3	21.5	0.2	54.4	43.0	79.0	37.4	53.5	143.0
6月中旬	22.6	24.0	1.4	48.6	70.3	144.7	82.7	1.5	1.8
6月下旬	23.9	25.8	1.9	33.7	26.0	77.2	123.2	106.0	86.0
7月上旬	25.6	27.0	1.4	41.6	24.8	59.6	148.7	373.5	251.2
7月中旬	26.9	29.5	2.6	56.1	53.4	95.2	92.4	10.5	11.4

1. 病害虫の発生状況

【病気】

(1) いもち病

現時点では、管内の圃場ではほとんど見受けられませんが、今後雨が多く、気温も上がりきらない日が続くような場合は、発生する可能性もあるため注意して下さい。



(2) 紋枯病

紋枯病は、高温傾向で降雨が多いと発生が多くなり、上位葉への進展も盛んになって被害も大きくなります。

毎年発生する圃場は注意しましょう。特に、畦が無く、コンクリート壁に囲まれているような田んぼでは、夜になってもなかなか温度が下がらないため、発生しやすい傾向にあります。



【害虫】

(1) セジロウンカ・コブノメイガ

7月上旬に若干飛来していますが、管内ではセジロウンカは全く見受けられず、コブノメイガもわずかにみられる程度です。もし見つけても防除の必要はありません。

(2) トビイロウンカ (秋ウンカ)

県内では7月上旬に飛来が確認されておりますが、管内の調査においては確認出来ませんでした。しかし、念のため今後の発生動向には細心の注意を払っておいてください。なお、箱粒剤の「防人箱粒剤」「スクラム箱粒剤」を使用されていない方につきましては、特に注意を払っていただくようお願いいたします。

トビイロウンカの特徴として『褐色で脂ぎったような色の小さいセミ』のような虫となっていますので、ご自分の圃場にいないか十分に観察して下さい。今後も発生動向を注視し稲作だよりでもお知らせしていきますのでご確認ください。

(3) イネカメムシ

近年、県内でも早期水稻を中心に発生が増加しています。管内におきましても、昨年は出作（久山町猪野、久原）において発生が確認され、本年も同様に、久山町猪野の夢つくしで発生を確認しております。このカメムシは、斑点米を発生させるだけでなく、出穂開花期に籾の基部付近から吸汁することで、不稔籾を発生させて減収となるため注意が必要です。なお、発生には品種や地域によって差があります。もし、ご自分の圃場で見つけられたら J A本店又は支店までご一報お願いします。



(4) 斑点米カメムシ類

畦等のイネ科雑草の穂を吸って増殖し、稲の出穂後、田んぼに侵入します。薬剤防除だけでは対応できかねますので、畦草管理と組み合わせて総合的に防除することが大事です。

① 出穂期 10 日前までに草刈りを終了し、出穂 10 日前（穂ばらみ期）～出穂後 20 日間は草刈りをしない。

もしくは、

② 出穂期 3 週間前頃に畦草を刈った場合は、出穂期にもう一度刈る等の畦草管理で対応しましょう。

薬剤散布のタイミングは、粒剤であれば【出穂期～穂揃期】

粉剤・水和剤であれば【出穂期の 7～10 日後】が基本となります

2. 今後の管理の注意点

(1) 水管理

多くの圃場で中干しは終了もしくは実施中と思われます。6月24、25日田植えの圃場も有効茎数を確保できていると思われますので、中干しを行ってください。

水稻の生育ステージ	無効分けつ期	幼穂形成期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理	中干し	間断灌水	浅水湛水	間断灌水	落水

<中干し後の水管理>

- ・ 中干し後は間断灌水を行ってください。「水を入れ、自然に落ちるまで待つて、2日程度した後に、また水を入れる」といった管理になります。根の活力を維持し、登熟を支えていくために重要な管理です。
- ・ なお、出穂期前後7日程度は、稲の一生の中で、最も水が必要な時期です。水を切らさないようにしてください。
- ・ 台風襲来時は、深水にして稲を保護してあげることが大切です。台風通過後も数日間は湛水状態を保ってください。

(2) 出穂期予想と穂肥施用

品種	田植日	出穂期予想
夢つくし	5月20日	7月28日頃
	6月10日	8月 8日頃
元気つくし	5月20日	8月 3日頃
	6月 3日	8月12日頃
	6月10日	8月14日頃
	6月17日	8月17日頃
	6月24日	8月20日頃
ヒノヒカリ	6月 3日	8月22日頃
	6月10日	8月24日頃
	6月17日	8月26日頃
	6月24日	8月28日頃

赤とんぼの里やベスト化成 444、尿硫磷 48 を使われる場合には出穂期予想の 20～18 日前頃に、油粕が使われる場合には出穂期予想の 25～27 日前頃に穂肥を施用しましょう。

元気つくしの穂肥は 2 回です。1 回目施用後 7 日後に 2 回目を施用してください。

なお、どの品種も元肥に一発型肥料を使用している圃場では、基本的に穂肥は必要ありませんが、葉色が薄い（畦のイネ科雑草と同じ色）場合には施用を検討してください。

各品種の施肥量に関しては、稲作ごよみでご確認ください。

3. その他

<農作業安全>

台風や大雨の対策は極力前日までに行い、水が引くまでは用水路等の危ない場所には近づかないようにしましょう。稲は 1 日冠水しても大丈夫な作物です。台風や大雨が過ぎ去った後で被害状況を確認しましょう。

また、農作業は可能な限り、朝夕の比較的涼しい時間帯に行いましょう。作業時間を決め、定期的に休憩を取り、水分並びに塩分を補給するよう心掛けましょう。

<中後期除草剤>

田植え後に散布した除草剤の効果が不十分で雑草が残っている場合には、下記の薬剤でご対応下さい。

<u>クリンチャーバスME液剤</u>	ヒエ・広葉	収穫 50 日前まで	<u>落水又は極浅水</u> での散布
<u>トドメバスMF液剤</u>	ヒエ・広葉	収穫 50 日前まで	<u>落水又は極浅水</u> での散布
<u>バサグラン粒剤</u>	広葉のみ	収穫 60 日前まで	<u>落水又は極浅水</u> での散布

内容に関する問い合わせは、JA または普及指導センターへ

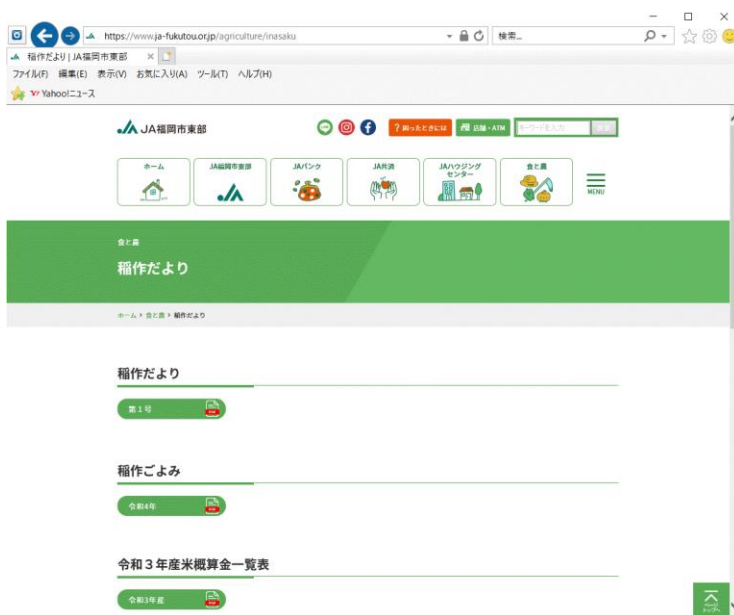
営農情報について

①最新の情報を LINE でお届けいたします。

営農情報（稲作だより等）を「JA 福岡市東部 営農情報」の LINE でも発信しております。下記のQRコードから LINE のご登録をお願いいたします。



②稲作だより等の情報が下記のQRコードよりご覧いただけます。



※今後の発行スケジュールですが「稲作だより 2号」をお盆前に、「稲作だより 3号」を8月末から9月初頭、「稲作だより 4号」を年末にと考えておりますので、ご参考下さい。